

研究テーマ ●水産学部の広報と実践教育の場～おさかなまつり～

水産学部・水産学科

附属練習船かごしま丸

おさかなまつり実行委員会
講師 東 隆文

研究の背景および目的

練習船は全国水産系学部のみならず与えられた教育・研究施設です。本学は近海を活動域とする南星丸、外洋域へ航海できるかごしま丸の2隻の練習船を所有し、独自の教育カリキュラムを展開しています。長期の遠洋航海実習を始めとする多彩な乗船実習科目があり、講義等で学んだ知識や技術の実践や調査・研究に活用されています。「おさかなまつり」は①これらの学習成果を実践する場を設け、②水産学部の活動を一般に広報して社会貢献する、ことを目的とした教育プログラムです。

おもな研究内容



平成24年3月竣工の第4代かごしま丸(935ト)。最新鋭の教育研究機器を装備する

「おさかなまつり」は大学祭に合わせて、かごしま丸と郡元地区で開催されます。学生・院生が主体となり、教職員の協力を得て、講義等で学んだ知識や技術を実践します。

かごしま丸会場では航海に参加した学生が来場者の案内係となり、船内を探検します。また実習で捕獲した魚で魚拓を作ったり、遠洋航海実習で獲れたマグロを学生の解説付きで解体するなど、来場者を楽しませる企画があります。学生は練習船の漁獲物・観測機器・漁具を利用して、子ども連れが多い来場者に説明することで、実践的な知識を身に付けることができます。



遠洋航海実習で釣り上げたマグロを計測



24年度は47日間の航海実習に23名(女子8名)が参加

期待される効果・応用分野

2010年、2011年と多くの市民の方々が、家族で来場され賑わいました。学生は船内設備の案内やイベント運営を行うことで、講義や実習で学んだ知識・技術を実践することができます。説明や質問に答える経験により、関係する科目間での知識・技術が有機的に結び付き、問題解決能力や創造力を養うこともできます。また地域社会に水産学部の教育内容や存在意義を広報し、理解を深めてもらうとともに、自治体・産業界と連携し水産海洋業界に貢献する契機となることも期待しています。

共同研究・特許などアピールポイント

- 2012年の47日間遠洋航海実習では太平洋での漁業実習、海洋観測に加え、東日本大震災の津波で流出した漂流物の目視データ収集を行いました。
- 大型練習船かごしま丸は近畿、宮崎、九州、日本、北海道、愛媛の各大学の学生が共同利用。25年度は放送大学のカリキュラムも実施される予定。

コーディネーターから一言

「おさかなまつり」では、最新の教育研究設備を備えた練習船かごしま丸を一般公開。水産学部の教育研究を楽しくご理解いただける好機です。また本船は共同利用拠点として、全国の大学から乗船実習を受け入れています。

研究分野 水産学、航海学

キーワード 練習船、水産、漁業、航海